

国産最初期の蓄音器

登録番号	第 00195 号		
登録年月日	平成27年9月15日	登録区分	第一種

名称 (型式等)	【 国産蓄音器 】 (1)ニッポノホン35号 (2)ラッパ内蔵型蓄音器ユーホン1号
所在地	石川県金沢市 金沢蓄音器館
所有者 (管理者)	金沢市
製作者(社)	(1) (2) 日本蓄音器商会 (現：日本コロムビア株式会社)
製作年	(1)1910年 (2)1911年
初出年	(1)1910年 (2)1911年
選定理由	1909（明治42）年の国産円盤レコード発売の翌年と翌々年に開発された蓄音器2種である。 (1)ニッポノホン35号は1910（明治43）年に発売された国産初の蓄音器で、日本蓄音器商会（現：日本コロムビア）が20号、25号、50号などと共に開発した。本資料は以下のような特徴を備えていた。 ①露出部を多くして注油や掃除を専門の機械工にゆだねる必要をなくした。 ②回転盤を鋳鉄から鋼鉄製に替え、回転を滑らかにした。 ③振動板を取り外し自在にし、曲に応じて適切なものを使えるようにした。 現存するものはほとんどがラッパを取り替える等の改変が加えられているが、本資料はオリジナルのもので貴重である。国産初の蓄音器としてよく知られており、多くの人に愛用され、その優れた再生音は今だに人々を魅了している。 (2)ユーホン1号は1911（明治44）年に発売された蓄音器である。音響ホーンは箱に収められておりコンパクトであった反面、ホーンが小さいため外部ラッパ付蓄音器よりも、低音が出にくく音量は小さかった。コンパクトにまとめた形状は女性にも調度品として好まれた。本資料の同型機を宮沢賢治が愛用したと伝えられている。
登録基準	二ーイ （国民生活の発展、新たな生活様式の創出に顕著な役割を果たしたもの）

公開・非公開	公開
写真	(1)  (2) 
その他参考となるべき事項	